

## 平成27年度 第3回

### 西宮市参画と協働に関する条例評価委員会 会議録（要約）

日 時：平成27年7月7日（火）午後6時00分～8時15分

場 所：西宮市市役所 東館8階805会議室

出席者：【委員】中川 幾郎（会長）、黒木 順子（副会長）、北川 悦久、川東 美千代、  
東 朋子、池野 雅一、森下 真

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、同係長 松野 歳之、同副主査 後藤 理恵

#### 1. 開会

#### 2. 審議事項

##### 議題1 傍聴に関する取扱いについて

傍聴希望者なし。

##### 議題2 平成26年度の協働事業提案手続以外の個別の協働事業の評価について

###### ○事務局

- ・協働事業提案手続以外の個別の協働事業の新たな評価方法（A～Eによる総合評価）について説明。

###### 《概要》

「個別評価項目」を参考に各委員が「5～1点」で総合評価をし、その平均点を全体の総合評価とする。

平均点を下記の表に照らし合わせて、全体の総合評価を決定する。

点数	評価	説明
4.5点以上	A	評価できる点が多く、他のモデルとなるような事業である。
4点以上	B	工夫の欲しい部分もあるが、評価できる点の多い事業である。
3点以上	C	適切である
2点以上	D	課題はあるがほぼ適切である
1点以上	E	不十分であり、改善が必要である

- ・実施件数、事業の内容等について説明。

(1)「西宮市男女共同参画ネットワーク委員会」について

○委員

- ・目的設定と業務配分がかみ合っていないように見受けられる。
- ・毎回委員全員を入れ替えるといった形態では、会としてまとまりにくい上に、委員、行政ともに全体としてまとまりにくく、負担が過大になると思われる。今後も協働するにあたり、この形態が妥当なのかあらためて検討してはどうか。
- ・10年以上続けてきて、やっと男女共同参画の精神が定着してきた。団体側と市側の自己評価の差は気になるが、今後の発展に期待したい。
- ・自己評価書における「信頼関係の構築」の項目において、団体側が「1. できた」としているのに対し、市側が「3. あまりできなかった」と評価している点に違和感を覚える。

○会長

- ・有意義な制度であるが、7期に至るまでに、過去の反省を踏まえた制度改良が図られてきたのか、常例的な運営の仕方になっていないかを見直してほしい。
- ・目的をどこに置くかを確認する必要がある。むしろ、30人規模の男女共同参画市民会議のようなものを立ち上げて、その中から専門委員を決めるなど、2段構え、3段構えの仕組みの構築や、市民社会を広げていくツールとしての活用なども考えられるのではないかと。もっと広がりを持たせる工夫が必要と思われる。

○評価

【平均点】 2.8点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

(2)「西宮市福祉作品展」について

○委員

- ・団体側の自己評価にある「計画段階での広報不足」は集客に影響することなので、もう少し市がリードして、事業を実行した方がいいのではないかと。
- ・応募作品は力作が多く、たくさんの作品が集まるなど、事業内容は高く評価できるが、来場者が少ない点については、会場を市の中心部にするなど、集客に対する工夫が必要。
- ・事業内容に比べて、事業費が割高に感じる。

○会長

- ・成果としては良い事業だが、事業実施に至るまでのプロセスが見えにくく、従来の慣行のまま行っているように見受けられた。プロセスこそが、参画協働において双方が成長していくチャンスと捉えて取り組んでほしい。

○評価

【平均点】 3.0点

【総合評価】 C 「適切である。」

### (3)「PTA活動の育成事業」について

#### ○委員

- ・協働して事業を実施するのであれば、そのプロセスが重要であり、協働の意義や必要性、具体的な目標を互いに確認することが必要。
- ・PTA活動自体は必要であるが、それぞれが多忙な中でPTA活動に携わっているため、どうしても不十分な協働になっているように見受けられる。
- ・PTA協議会の役員への熱意やエネルギーによって、研修会が実りあるものになるかどうかが大きく分かれる。昔に比べてPTAの役員を育てる土壌ができていないので、市の担当者が社会教育について十分に理解し、役員に対するアドバイスや人材育成にしっかりと取り組むことで、協働することの意味が生まれてくる。

#### ○会長

- ・事業自体に意義があることは理解できるが、この事業については、社会教育行政の中で、全体的な位置づけをもう一度洗い直す必要がある。PTAの役員への手が不足している現状もある中で、学習活動がどのような形で保障されていくべきなのか、危機意識を持って協働関係を設計してほしい。
- ・行政がどのような形でPTA活動を育成していこうとしているのかが見えてこない。慣行にとらわれることなく、絶えず見直しを図ってほしい。

#### ○評価

【平均点】 2.7点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

### (4)「文化財調査ボランティア事業」について

#### ○委員

- ・事業目的が「文化財基本台帳を作成し、文化財保護活動を推進する。」となっているが、市がボランティアである団体側にどこまでのことを期待しているのか、この活動が目的に沿っているのかが見えてこない。
- ・市は団体側の自主的な活動を活発にしていきたいと考えているようだが、市は団体に対してどこまでの自主性を求めているのかが見えてこない。団体にとっては調査が目的になっていると思われる。ボランティア団体の位置づけについてあらためて検討すべきと考える。
- ・団体の自己評価において、「歴史調査団として独立した活動をするというよりも、郷土資料館の調査活動の手伝いをしているという意識が強いと思う。」との記載があることから、団体にとって自主的に活動しようという意欲がわからない仕組みになっているのではないか。
- ・費用をあまりかけずにパネル展示や講座を実施するなど、図書館を含めた行政との協働が図れている。

#### ○会長

- ・歴史調査団員が、この活動を通じて身につけたスキルや知識を文化財ガイドとして活かすなど、次のステップにつながるような道筋を設定してほしい。

○評価

【平均点】 2.7 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

(5) 「郷土資料館歴史講座」について

○委員

- ・歴史講座の広報や集客を団体が行う必要性はあるのか。
- ・市の自己評価書において、計画段階においては「両者の合意形成が十分でない。」としながら、振り返りの段階においては「両者の目的を十分に達成できている事業である。」としていたり、市と団体の自己評価が大きく異なっていることに違和感がある。
- ・郷土資料館の学芸員が宮水学園のグループ等に対する講義を行う、団体側の役割が集客のみという内容であれば、これは協働事業と言えないのではないかと。もう少し工夫がほしい。

○会長

- ・事業の内容は良いが、協働の事例として妥当でないと思われる。団体側が講座を受講するだけでなく、社会貢献につながるようなステップアップの仕組みを設けてほしい。

○評価

【平均点】 2.7 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

(6) 「第 30 回ユネスコ世界児童画展」について

○委員

- ・絵画展の開催自体が目的になっていて、目標が設定できていないのではないかと。また、目標設定をする際は、参加校数や観覧者数などではなく、内容を充実させるような目標を設定してほしい。
- ・子どもたちにとっていい機会になるし、教育委員会がうまく関わることで、良い協働の事例になる可能性を秘めていると思うが、絵画展をやるのが目的化していて、本当の目的が見えなくなっている。事業内容を見直す必要があると感じる。
- ・絵を通じてそれぞれの国のことが見えてくる。日本の子どもたちが、世界の子どもたちの絵画を目にできるのは非常にいい機会だと思う。
- ・子どもたちにとっては、世界の児童の絵を見ることだけでもプラスになると思うが、長年の歴史の中で、市・団体ともに慣例的に行っているように感じる。時代にあわせて事業内容を変更していくなど、計画段階からしっかりと協議してほしい。
- ・市民ギャラリー（川添町）は駅から遠く、駐車場もないので、小さな子どもがいる世帯はなかなか足を運ぶことができない。利便性の高い場所や、小さな会場でもいいので、市内の各地域で児童画展を開催することで、より多くの集客を図ることができるのではないかと。
- ・絵画を交換した後に、子どもたちが手紙を交換するなどの交流があってもいいのではないかと。

○会長

- ・協働事業の実施にあたっては、常に活発な意見交換を通じて、ステップアップしていこうという姿勢が必要。
- ・学校の就学率など、各国の背景を説明するような解説者はいるのか。海外の子どもたちの絵画を見るだけでなく、事業に奥行きを持たせる工夫がほしい。
- ・交流につながるようなアクションが事業に組み込まれていてもいいのではないか。

○評価

【平均点】 3.0 点

【総合評価】 C 「適切である。」

(7)「西宮市人権・同和教育研究集会」について

○委員

- ・事業を長年続けていると、課題は多かれ少なかれ見えてくると思う。毎年、自己評価をしっかり行い、その後の改善につなげてほしい。
- ・人権・同和教育は大事なことだと思うが、会の運営にこれだけの経費がかかっていることに驚いた。また、事業費に対して賄い費や謝金の占める割合が高く感じる。
- ・多数の団体や人が参加しているようだが、限られた人たちの集まりになっていないか。

○会長

- ・全国で起きている問題を研究集会に落とし込むだけでなく、西宮の地域から拾い上げた人権課題につながっているのかも問うてほしい。
- ・人権、男女共同参画、児童の権利、外国人労働者の問題などを、一般市民に定着させる必要がある。それらが、教職員や行政の一部職員、地域の限られたリーダーにとどまることがないように努めてほしい。

○評価

【平均点】 2.7 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

(8)「国際理解講座」について

○委員

- ・市と2つの団体が協働して実施しているにも関わらず、事業規模が小さいのが残念。
- ・当日の写真をみると、比較的高齢の参加者が多いように見受けられるが、中学生や高校生も参加しやすいようにしてはどうか。
- ・西宮市にはたくさんの外国人が住んでおり、幼稚園や夏祭りなど、地域レベルでの交流が行われている。このような方たちにボランティアで講師をお願いすることもできるのではないか。
- ・西宮市に住んでの感想という漠然としたものではなく、もう少しテーマを絞ったほうがいいのではないか。

○会長

- ・事業コンセプトが練られていないように感じる。もう少し工夫がほしい。

○評価

【平均点】 2.8 点

【総合評価】 D 「課題はあるがほぼ適切である。」

<議題 2 全体の総評>

○委員

- ・協働には、共催・実行委員会形式以外にも、委託や補助など様々な形態がある、現在の協働の形態が適切なのかどうか、絶えず検証する必要がある。

○会長

- ・それぞれの事業に言えることだが、時代や状況に応じた点検作業の経過が見受けられない。
- ・ほとんどの事業が、物理的な役割分担に終始していて、現状認識、現代的あるいは地域的課題の洗い出し、合意形成、それらに基づく事業コンセプトの決定というプロセスがすべて抜けてしまっているように感じる。協働ではなく、単なる作業の分担に終わっているのではないか。
- ・協働事業の実施にあたっては、行政側がリードすべきである。本日の評価がいずれも低くなったのは、スタートから事業開始に至るまでに、一緒に考えようというプロセスが行政側に欠落していることが原因と考える。

<議題 2 の評価結果一覧>

No.	事業名	平均点	総合評価
1	西宮市男女共同参画ネットワーク委員会	2.8	D
2	西宮市福祉作品展	3.0	C
3	P T A活動の育成事業	2.7	D
4	文化財調査ボランティア事業	2.7	D
5	郷土資料館歴史講座	2.7	D
6	第 30 回ユネスコ世界児童画展	3.0	C
7	西宮市人権・同和教育研究集会	2.7	D
8	国際理解講座	2.8	D

3. 事務連絡

- ・第 4 回の評価委員会の日程は 7 月 23 日（木）。

4. 閉会

以 上